



大野 誠先生 略歴

- 1952年 7月 愛知県名古屋市に生まれる
- 学 歴**
- 1975年 3月 名古屋大学工学部化学工学科 卒業
1975年 4月 名古屋大学工学部化学工学科研究生 (1976年 3月まで)
1976年 4月 名古屋大学大学院工学研究科修士課程化学工学専攻 入学
1978年 3月 名古屋大学大学院工学研究科修士課程化学工学専攻 修了
1979年 4月 東京大学大学院理学系研究科修士課程科学史科学基礎論専攻 入学
1982年 3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程科学史科学基礎論専攻 修了
1985年 4月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程西洋史専攻 入学
1990年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程西洋史専攻 単位取得満期退学
1990年 4月 名古屋大学大学院文学研究科研究生 (1991年 3月まで)
- 職 歴**
- 1978年 4月 南山中・高等学校 (女子部) 理科非常勤講師 (1979年 3月まで)
1982年 4月 南山中・高等学校 (国際部) 理科非常勤講師 (1983年 3月まで)
1982年 4月 名古屋市立工芸高等学校理科非常勤講師 (1983年 3月まで)
1983年 4月 河合塾大学予備校化学・理科 I 専任講師 (1985年 3月まで)
1985年 11月 名城大学理工学部 I 部科学技術史非常勤講師 (1991年 3月まで)
1986年 4月 名城大学理工学部 II 部科学技術史非常勤講師 (1991年 3月まで)
1990年 4月 中京大学教養部西洋史非常勤講師 (1991年 3月まで)
1991年 4月 長崎大学教養部科学技術史担当助教授 (1996年 3月まで)

1994年 9月	ロンドン大学バークベックカレッジ歴史学科客員研究員 (1995年 9月まで)
1996年 4月	愛知県立大学外国語学部助教授 (1998年 3月まで)
1998年 4月	愛知県立大学外国語学部教授 (2018年 3月まで)
1998年 4月	愛知県立大学大学院国際文化研究科修士課程兼任 (2018年 3月まで)
1999年 4月	愛知県立大学学生部次長 (2001年 3月まで)
2008年 4月	愛知県立大学教育研究審議会委員 (2009年 3月まで)
2009年 4月	愛知県立大学外国語学部長 (2012年 3月まで)
2009年 4月	愛知県立大学大学院国際文化研究科長 (2011年 3月まで)
2017年 4月	愛知県立大学大学院国際文化研究科博士課程兼任 (2018年 3月まで)
2018年 3月	愛知県立大学外国語学部を定年により退職

大野 誠先生 研究業績目録

著 書

- 『化学史・常識を見直す』日本化学会編 講談社ブルーバックス
「5 アヴォガドロは分子概念を提起したか—「常識」への挑戦—
(pp. 88-112) 1988
- 『原子論・分子論の原典』(第1巻) 化学史学会編 学会出版センター
「3章 近代的元素概念の確立をめぐる」(pp. 125-173) 1989
- 『現代科学論の名著』村上陽一郎編著 中公新書
「サククレー『原子と諸力』」(pp. 145-160) 1989
- 『科学における論争・発見』横山輝雄ら編著 木鐸社
「化学革命とは何か—ヒストリオグラフィの検討—」(pp. 241-272) 1989
- 『英国をみる—歴史と社会—』近藤和彦ら編著 リプロポート
「ソサエティ・オヴ・アーツ前史—18世紀イギリスの科学と社会—」
(pp. 119-136) 1991
- 『科学史の世界』小川真里子との共編著 丸善
「S. ジョンソンの『英語辞典』とイギリス科学の権威」(pp. 73-92) 1991
- 『科学史へのいざない—科学革命期の原典を読む—』単編著 南窓社
164頁 1992
- 『原子論・分子論の原典』(第3巻) 化学史学会編 学会出版センター
「8章 分子論史の新たな展開のために」(pp. 55-87) 1993
- 『科学と国家と宗教』柏木肇らとの共著 平凡社
「第3章 啓蒙主義と産業革命のはざま—ソサエティ・オヴ・アーツ設立期の
懸賞活動—」(pp. 57-88) 1995

- 『ジェントルマンと科学』(世界史リブレット) 単著 山川出版社 1998
82頁
- 『結社のイギリス史』川北稔ら編 山川出版社 2005
「近代科学の誕生と結社」(pp. 106-117)
- 『近代イギリスと公共圏』編著 昭和堂 2009
「はじめに」(pp. i-vi)
「第4章 民間団体と議会—工芸振興協会の18世紀の活動から—」
(pp. 105-130)
- 『歴史の場—史跡・記念碑・記憶—』若尾祐司・和田光弘編著 ミネルヴァ書房 2010
「ニュートンのりんごの木—記念樹の誕生—」(pp. 85-99)
- 『化学史事典』化学史学会編(編集長:大野誠) 化学同人 2017
「はじめに」、40項目執筆など
- 『ワットとステイーヴンソン』(世界史リブレット 人) 単著 山川出版社 2017
98頁
- 学術論文**
- “Ultrasonic & Volumetric Investigation of Aqueous Solutions of Amides”
宮原豊らとの共著 *Bull.Chem.Soc.Jpn.*, 50 (9): 2229-2233 1977
- “An Ultrasonic Absorption Study of the DMF-Water System”
宮原豊らとの共著 *Bull.Chem.Soc.Jpn.*, 52 (11): 3135-3138 1979
- 「アヴォガドロの1811年論文の再検討」
『化学史研究』第31号: 95-107 1985
- 「アヴォガードロは分子概念を提起したか」
『化学と教育』35 (2): 142-147 1987
- 「伝統的なラヴワジエ像とその問題点」
『化学史研究』第42号: 30-42 1988
- 「18世紀イギリス科学の社会史にむけて」
『思想』No. 779: 29-47 1989
- 「Society of Arts 設立期(1754-57)の活動的会員のプロソボグラフィ」
『長崎大学教養部紀要人文科学篇』32 (2): 33-70 1992
- 「「敗者のゆくえ」—それでも私はフロギストン説を信じる—」
『化学』1992 (10): 12-15 1992
- 「「化学革命」とフランス革命への対抗—ロバート・ハリントン著『フランス化学理論
への死刑執行令状』(1804年)をめぐって—」
『化学史研究』第63号: 93-106 1993

- “The Winners of Premiums awarded by the Society of Arts for Madder Cultivation, 1756–75: A Check List”
『愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）』第29号: 1–20 1997
- 「18世紀イギリスの染色業—意義と課題—」
（化学史学会編）『平成8年度産業技術の歴史に関する調査研究報告書』
pp. 148–167 1997
- 「イギリス産業革命と科学」『科学の文化的基底 (II)』
（国際高等研究所報告書2001–005） pp. 41–49 2001
- 「イギリス「産業革命」前夜の工芸振興—工芸振興協会の「少年・少女図画コンクール」
受賞者（1755–66年）の経歴調査から—」
『愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）』第35号: 47–70 2003
- 「イギリス産業革命前夜の工芸と産業—工芸振興協会による染色業振興策—」
（平成12年度～14年度科学研究費補助金（基盤研究 (C)(2)）研究成果報告書）
48頁 2003
- 「オランダの独占に挑む—工芸振興協会によるアカネ栽培の奨励、1754～75年—」（上・下）
『愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）』
（上）第36号: 59–74 2004
（下）第37号: 21–38 2005
- “Voluntary Association, Parliament, and Public Sphere: The Encouragement of Madder
Cultivation by the Society of Arts, 1754–1760s”
大野誠（研究代表者）編著『近代イギリスにおける公共圏・権力・中間団体』
（平成14年度～17年度科学研究費補助金（基盤研究 (A)(1)）研究成果報告書）
pp. 14–26 2006
- 「ニュートンのりんごの木—記念樹になったとき—」
若尾祐司（研究代表者）編著『ヨーロッパ「歴史の場」に関する研究』
（平成19年度・20年度科学研究費補助金（基盤研究 (B)）研究成果報告書）
pp. 49–88 2009
- 「ニュートン錬金術手稿の研究現状」
『化学史研究』第136号: 143–153 2011
- 「プロソグラフィ考」
『化学史研究』第142号: 34–41 2013
- 「ニュートンの『光学』と錬金術—覚書—」
『愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）』第46号: 25–46 2014
- 「ニュートン錬金術研究の現状」
『化学と教育』63 (2): 56–59 2015
- 「20世紀イギリスにおけるエリート科学者の輩出基盤—ノーベル科学賞受賞者の分析—」
『愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）』第50号: 1–19 2018

翻 訳

- P. J. マケ「元素、原質、物体の合成など」および H. デイヴィ「未分解物質どうしの類似性について」
化学史学会編『原子論・分子論の原典』第1巻 学会出版センター
pp. 175-210 1989
- M. ハンター著『イギリス科学革命—王政復古期の科学と社会—』 南窓社
302頁 1999
- W. H. ブロック著『化学の歴史 I・II』(梅田淳・菊地好行との共訳) 朝倉書店
I 308頁 2003
II 320頁 2006
- デイヴィッド・ヘンプトン「啓蒙主義と信仰」P. ラングフォード(鶴島・坂下監訳)
『オックスフォード ブリテン諸島の歴史 8—18世紀1688-1815年—』
慶應義塾大学出版会 pp. 86-121 2013

学会発表

- (宮原豊らと共同)「アミド水溶液の音速度」
(第21回音波の物性と化学討論会、佐賀大学)『講演論文集』: 7-9 1976
- (宮原豊らと共同)「ジメチルホルムアミド水溶液の超音波吸収」
(第22回音波の物性と化学討論会、愛知県産業貿易館)
『講演予稿集』: 27-29 1977
- 「Royal Institution の設立当時の性格について」
(化学史学会第26年会、専修大学)『研究発表講演要旨集』: 19-20 1979
- 「Royal Institution における H. Davy」
(化学史学会年会、金沢大学)『化学史研究』11号: 40 1979
- 「〈化学革命〉とは何か」
(化学史学会年会、玉川大学)『化学史研究』20号: XIX 1982
- 「C. Daubeny の『原子論序説』(1831年)の再評価」
(化学史学会年会、大阪大学)『化学史研究』24号: XIII 1983
- 「アヴォガドロ分子説の再検討—1811年論文を中心として—」
(化学史学会年会、成蹊大学)『化学史研究』28号: XII 1984
- シンポジウム発表「産業革命のイギリスにおける化学に対する社会的関心
— Society of Arts の活動に寄せて—」(化学史学会年会、日本大学)
『化学史研究』36号: 132 1986
- 「職業としての Chymist —18世紀中葉のロンドンにおいて—」
(化学史学会会、富山大学)『化学史研究』40号: 140 1987
- シンポジウム発表「分子概念はいつ、どのようにして形成されたのか」
(化学史学会年会、東京学芸大学)『化学史研究』44号: 141 1988

- シンポジウム発表「「二重革命」(「化学革命」とフランス革命)への対抗」
(化学史学会年会、南山大学)『化学史研究』48号: 141 1989
- 「Society of Arts 設立期(1754-63)の活動について—科学の社会史の観点から—」
(日本西洋史学会第39回大会、京都産業大学)『部会別研究発表要旨』: 20 1989
- 「Society of Arts 設立期(1754-60)の活動について—他の懸賞団体との比較—」
(日本産業技術史学会第8年会、北九州市立商工貿易会館)
『講演概要集』: 2-5 1992
- 「『化学史研究』20年間の歩み—回顧と展望—」
(化学史学会年会、東京理科大学)『化学史研究』64号: 210 1993
- 「オランダの独占に挑む—Society of Artsによるアカネ栽培の奨励1754-75年—」
(日本西洋史学会第46回大会、早稲田大学)『部会別自由論題報告要旨』: 68 1996
- 「18世紀中葉のイギリス染色業に関する史料について」
(化学史学会年会、津山国際ホテル)『化学史研究』82号: 87 1998
- 「プロソグラフィ考」
(化学史学会年会、東京外国語大学)『化学史研究』95号: 130 2001
- 「イギリス産業革命前夜の工芸と産業—工芸振興協会の染色業振興策—」
(化学史学会年会、福岡女学院大学)『化学史研究』99号: 117 2002
- (坂下史と共同)小シンポジウム〈近代イギリスにおける公共圏〉「問題提起」
(日本西洋史学会第55回大会、神戸大学)『小シンポジウム報告要旨』: 82 2005
- 「ニュートンの『光学』「疑問31」と錬金術」
(化学史学会年会、神戸大学)『化学史研究』111号: 117 2005
- シンポジウム発表「工芸の補助学としての化学—工芸振興協会設立時の活動から—」
(化学史学会年会、東京工業大学)『化学史研究』123号: 104-105 2008
- 「科学の記念樹〈ニュートンのりんごの木〉に関するイギリスでの史料」
(化学史学会年会、大阪大学)『化学史研究』127号: 107 2009
- 「ニュートン錬金術の手稿史料について—研究の現状—」
(化学史学会年会、明治大学)『化学史研究』131号: 97 2010
- 「ニュートン『光学』の成立について」
(化学史学会年会、弘前大学)『化学史研究』135号: 104 2011
- 「ニュートンの化学実験ノートの研究(1)—ボイルの寄与—」
(化学史学会年会、ホテルサンルート徳山)『化学史研究』139号: 108 2012
- シンポジウム発表「20世紀イギリスにおけるエリート科学者の輩出基盤」
(化学史学会年会、東京電機大学)『化学史研究』143号: 96-97
動画: <https://www.youtube.com/watch?v=9eHRo8VdjiFk> 2013

- シンポジウム発表「『化学史事典』編纂の現状と今後」
(化学史学会年会、東京電機大学)『化学史研究』143号: 92-93 2013
- シンポジウム〈近代イギリスにおける科学の制度化—イギリス史研究の視点から—〉
「趣旨説明」(化学史学会年会、総合研究大学院大学葉山キャンパス)
『化学史研究』151号: 87 2015
- シンポジウム〈近代イギリスにおける科学の制度化—専門分科と公共圏—〉
「趣旨説明」(化学史学会年会、三重大学)『化学史研究』155号: 101 2016
- 書 評**
- D. M. Knight, *The Transcendental Part of Chemistry*
『化学史研究』11号: 42-45 1979
- R. P. Multhauf, *The History of Chemical Technology: An Annotated Bibliography*
『化学史研究』33号: 209 1985
- 石田純郎『蘭学の背景』・『江戸のオランダ医』
『化学史研究』46号: 46-47 1989
- D. M. ナイト『化学の超経験的部分』
『化学史研究』48号: 121-123 1989
- 「科学の社会史」の現段階—化学史学会を結節点として—
『化学史研究』49号: 187-195 1989
- E. P. トムスン他『歴史家たち』
『化学史研究』53号: 183 1990
- R. P. マルソーフ『塩の世界史』
『化学史研究』53号: 184-186 1990
- 「18世紀イギリス科学のプロソポグラフィに関する2著」
『化学史研究』54号: 43-45 1991
- C. Macleod, *Inventing the Industrial Revolution*
『化学史研究』58号: 59-62 1992
- 科学・技術と社会の会編『年報科学・技術・社会』創刊号
『化学史研究』61号: 310-311 1992
- 渡辺正雄編著『ケプラーと世界の調和』
『化学史研究』62号: 58-59 1993
- 遅塚・近藤編『過ぎ去ろうとしない近代—ヨーロッパ再考—』
『化学史研究』63号: 58 1993
- D. M. Knight, *Ideas in Chemistry*
『化学史研究』65号: 302-303 1993

- L. シーピンガー 『科学史から消された女性たち』
『科学史研究』 191号: 178-179 1994
- M. ジェイコブ 『ニュートン主義者とイギリス革命』
『科学史研究』 66号: 72-74 1994
- 犬上博史作・石田おさむ画 『ニュートン』
『科学史研究』 67号: 211 1994
- 松本三和夫 『船の科学技術革命と産業社会』
『広島大学大学研究センター大学論集』 25号: 324-326 1995
- M. Hunter, *The Royal Society and Its Fellows 1660-1700*
『科学史研究』 78号: 63-64 1997
- Y. Furukawa, *Inventing Polymer Science*
『科学史研究』 93号: 236-238 2000
- 石田純郎 『アジア医科学史散歩』
『科学史研究』 93号: 238 2000
- 長尾伸一 『ニュートン主義とスコットランド啓蒙』
『科学史研究』 100号: 197-199 2002
- ボンベ 『ボンベ化学書』
『科学史研究』 116号: 180-182 2006
- A. G. Debus (ed.), *Alchemy and Early Modern Chemistry*
『科学史研究』 119号: 98-99 2007
- リービッヒ 『有機化学主要論文集』
『科学史研究』 123号: 90-91 2008
- エッセイレビュー 「ニュートン研究の現状」
『科学史研究』 125号: 230-234 2008
- 村上陽一郎編 『日本の科学者101』
『科学史研究』 134号: 52 2011
- 石橋悠人 『経度の発見と大英帝国』
『科学史研究』 138号: 50 2012
- R. G. W. Anderson and J. Jones (eds.), *The Correspondence of Joseph Black*
『科学史研究』 142号: 47-48 2013
- D. P. Miller, *James Watt, Chemist*
『科学史研究』 148号: 178-179 2014
- Y. Kikuchi, *Anglo-American Connections in Japanese Chemistry*
『科学史研究』 157号: 214-216 2016

S. ガース 『薬局—17世紀末ロンドン医師薬剤師大戦争—』 『化学史研究』 157号: 219	2016
園部利彦 『日本の鉱山を巡る一人と近代化遺産—』 『化学史研究』 157号: 219–220	2016
T. Ito, <i>London Zoo and the Victorians 1828–1859</i> , 『科学史研究』 279号: 274–275	2016
長尾伸一 『複数世界の思想史』 『科学史研究』、280号: 359–360	2017
P. Morris, <i>The Matter Factory</i> 『化学史研究』 158号: 43–45	2017
小川眞里子 『病原菌と国家』 『化学史研究』 158号: 50–51	2017
A. Nieto-Galan, <i>Science in the Public Sphere</i> 『化学史研究』 162号: (印刷中)	2018
その他	
「デーヴィ」(p. 671) 「デュロン・プティの法則」(p. 682) 「バンクス」(p. 844) 「ファラデー」(pp. 877–878) 「フィッシャー」(p. 881) 「フラン克蘭ド」(p. 919) 「ラムジ」(pp. 1091–1092) (伊東俊太郎監修) 『科学史技術史事典』 弘文堂	1983
「化学史研究第1回「春の学校」を終えて」 『化学史研究』 31号: 111–118	1985
「化学史研究第2回「春の学校」の報告」 『化学史研究』 37号: 186–189	1986
「化学史研究第3回「春の学校」の報告」 『化学史研究』 41号: 186–187	1987
「ファラデー、科学者への道」(p. 27) (長谷川俊明編) 『心を揺らす楽しい授業 話題源化学』 東京法令出版	1987
(古川安・柏木肇との共著) 「特集ラヴワジエ研究入門をはじめるにあたって」 『化学史研究』 42号: 28–29	1988
「特集ラヴワジエ研究入門第2回 文献案内 (1963–1985)」 『化学史研究』 43号: 67–73	1988
「化学史研究第4回「春の学校」の報告」 『化学史研究』 45号: 191–195	1988
「分子概念の成立に関する拙考への批判に答えて I」 『化学史研究』 48号: 104–110	1989

- (鶴田治之との共著) 「特集ラヴウジエ研究入門第 6 回ラヴウジエの酸理論」
『化学史研究』 47号: 72-83 1989
- 「ロンドン図書館訪問記—手稿史料の探索—」
『化学史研究』 53号: 173-180 1990
- 「ダーウィン」(p. 115) 「アインシュタイン」(p. 149) 「ライト兄弟」(p. 150)
江上波夫ら編『世界史写真集第 V 期解説書』山川出版社 1991
- (内野若菜との共著) 「マンガと科学史」
『化学史研究』 61号: 302-305 1992
- 『『化学史研究』 20年間の歩み—回顧と展望—』
『化学史研究』 65号: 283-293 1993
- 「人類と文明の視点 1 以下の全項目」(pp. 2-4) 「アークアイトと彼の水力紡績機」(p. 121) 「ワットの蒸気機関」(p. 122)
「第 2 次産業革命・ベルの電話機・キュリー夫妻」(pp. 195-196)
(柴田三千雄ら編著)『現代の世界史—教授資料—』山川出版社 1994
- 「1994 年度年会を終えて」
『化学史研究』 67号: 205 1994
- 「キャヴェンディッシュ」(p. 327) 「シュタール」(p. 746) 「ファラデー」(p. 1351)
「ベルトレ」(p. 1456)
廣松渉ら編『岩波哲学・思想事典』岩波書店 1998
- M. ハンター教授〈来日〉講演「『魔術の衰退』再考」の解説
『科学技術史』 4号: 121-123 2000
- 「回想—伊東ゼミ—」
『伊東俊太郎博士古稀記念文集』
(川窪・立木・保坂編、麗澤大学比較文明研究センター) pp. 148-151 2000
- 「追悼 柏木肇先生作品一覧」
『化学史研究』 90号: 59-61 2000
- 「追悼 柏木科学史の足跡—追悼の辞にかえて—」
『化学史研究』 91号: 95-97 2000
- 「第 1 章原子、分子の探究」(pp. 14-27)
高等学校理科教科書『理科基礎』数研出版 2002
- 「2003 年度(金沢) 年会報告記」
『化学史研究』 104号: 184 2003
- 「〈化学史と教育〉シンポジウム(理科基礎をめぐって) 報告記」
『化学史研究』 106号: 53 2004

- 「学会」(pp. 118-119) 「近代科学」(pp. 188-191) 「自然科学」(pp. 280-281) 「実験」
(p. 289) 「ニュートン主義」(p. 515)
岸本美緒編『歴史学事典』第11巻 弘文堂 2004
- 「錬金術の基礎理解」
『サイエンスネット』(数研出版) 21号: 6-9 2004
- 「日本西洋史学会第53回大会記」
『西洋史学』212号: 62 2004
- 「追悼 渡辺正雄先生を偲んで—残された大きな宿題—」
『科哲』(東大科哲の会) 7号: 60-61 2005
- 「王立協会」(pp. 32-33)
川北稔編『歴史学事典』第13巻 弘文堂 2006
- 「資料：日本における化学史文献—世界編一」
『化学史研究』117号: 193-253 2006
- 「アボガドロ」(p. 42)
吉村壽次編『化学辞典第2版』森北出版 2009
- 夢ナビ TALK 「科学史へのいざない～ニュートンは科学者？」
動画：https://www.youtube.com/watch?v=1z-3UL4JrBY 2015
- 夢ナビ講義 「ニュートンのリンゴの木はどこから来たのか」
動画：http://yumenavi.info/WNF012/WNF012_O.aspx?sq=201535118p 2015
- 「近代イギリス科学の制度化—イギリス史研究者の視点から—序文：特集をはじめ
にあたって」
『化学史研究』156号: 127-128 2016
- (加藤貴広と共同) 特別報告 「『化学史事典』の編纂を終えて—成果と今後の課題—」
(化学史学会年会、三重大学) 『化学史研究』155号: 126 2016
- 「会長に就任して」
『化学史研究』158号: 1 2017
- (加藤貴広と共同) 特別報告 「『化学史事典』の刊行」
(化学史学会年会、国立科学博物館(上野)) 『化学史研究』159号: 126 2017
- 「近代イギリスにおける科学の制度化：専門分科と公共圏、特集をはじめにあたって」
『化学史研究』161号: 161-163 2017
- 編著 『Institutionalization of Science and the Public Sphere in Modern Britain』
(平成26年度～平成29年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書)
2018

研究奨励資金

愛知県立大学学長特別研究費

研究課題「18世紀中葉のイギリス染色業に関する史料調査」 1997

科学研究費補助金

基盤研究 (B) (H11-13) 研究課題「科学史資料集ならびに科学史を利用した
授業案集の開発に関する研究」(研究代表者: 杉山滋郎) 1999-2001

基盤研究 (C) (一般) (H12-14) 研究課題「イギリス産業革命前夜の工芸と産業
: 工芸振興協会による染色業振興策」(研究代表者: 大野誠) 2000-2002

基盤研究 (A) (一般) (H14-17) 研究課題「近代イギリスにおける
「公共圏」・中間団体・権力」(研究代表者: 吉瀬征輔 (H14-16)、大野誠 (H17))
2002-2005

基盤研究 (B) (一般) (H19-20) 研究課題「ヨーロッパ「歴史の場」に関する研究」
(研究代表者: 若尾祐司) 2007-2008

基盤研究 (C) (一般) (H21-24) 研究課題「ニュートンの『光学』と錬金術」
(研究代表者: 大野誠) 2009-2012

基盤研究 (B) (H25-27) 研究課題「日本化学の転換点としての1930~60年の
比較科学史的研究」(研究代表者: 梶雅範) 2013-2015

基盤研究 (B) (H26-29) 研究課題「近代イギリスにおける科学の制度化と公共圏」
(研究代表者: 大野誠) 2014-2017

学会活動・社会活動

日本科学史学会 (1976-)

同生物学史分科会 (1976-)

化学史学会 (1976-)

評議員 (1987-1993)、理事、事務局長、監事を経て、会長 (2017-)

History of Science Society (USA, 1983-)

British Society for the History of Science (1983-)

史学会 (1988-2011)

日本西洋史学会 (1989-)

第53回大会 (2003年、開催校: 愛知県立大学) 準備委員会代表

日本産業技術史学会 (1991-)

日本18世紀学会

常任幹事 (2013-2015) 第38回大会 (2016年、開催校: 愛知県立大学) 準備委員

研究産業協会「産業技術の歴史調査研究委員会」委員 (1993-1999)

大学基準協会平成20年度大学評価分科会委員 (2008)

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員 (2011-2013、2014-2016)

愛知県春日井市かすがい熟年大学講師 (2012)

夢ナビ TALK 夢ナビ講義講師 (2015)